

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890700036
法人名	特定非営利活動法人アクティブボランティアセンター阿蔵の森
事業所名	グループホーム阿蔵の森
所在地	大洲市阿蔵甲1691番地4
自己評価作成日	平成28年7月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年8月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>自然環境に恵まれており、季節感を感じながら明るいスタッフとともに日々の暮らしを支援しています。毎日の暮らしがいつまでもその方らしく過ごせるよう、お一人おひとりに合ったケアを心掛けています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>家族への情報提供は、電話や来訪時に写真等を見せる等して行っている。4月の花見、9月の敬老会時に家族会を行っている。又、日々の利用者の様子を「包み隠さず」個別に細やかに、電話等で連絡する取り組みを行っており、家族との信頼関係につながっている。廊下には、職員の顔写真に特技を添えて掲示していた。</p> <p>自室で転倒した利用者について話し合い、自宅からじゅうたんを持って来てもらい、敷いているところがあった。利用者は「自宅にいるみたい」と言われるようだ。本人は、自宅にいるころから朝食後に新聞を読む習慣があり、入居後も自室でベッドに座って新聞を読めるよう支援している。自宅から椅子を持ち込み、ベッドサイドに置いて手すりにしている方がいた。</p>
--

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容を P R!!!

- サービス向上への3ステップ -  
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 グループホーム阿蔵の森

(ユニット名) B

記入者(管理者)

氏名 岡西 一徳

評価完了日 平成28年 7月 1日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)  介護が必要になっても、馴染みの地域で、安心して明るい 暮らしが継続できるよう心掛けている。	
			(外部評価)  開設時につくった理念「あたたかい手 明るい笑顔 やすら ぎの空間」を玄関や各ユニットに掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)  近隣のグループホーム同士の交流や、小学校行事や地区 行事への参加、また小、中学校の福祉体験の受け入れを 行っている。ホームの行事には近所の方をお誘いし、少しで も来て頂けるよう配慮している。	
			(外部評価)  2月に小学校から児童の訪問があり、歌や踊りを見せてくれ た。7月にそうめん流しを行った際には、他グループホーム や近所の家族の参加があった。8月の地区盆踊り大会には、 管理者と利用者数名で参加する予定がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)  運営推進会議を活用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>2カ月に一度実施している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>オープンな事業所を目指して、会議時には、活動や事故、ヒヤリハット報告等を詳細に行い話し合ったり、意見を聞くようにしている。地域からは公民館長や区長等が参加している。又、協力医や他グループホーム職員の参加もある。運営推進会議への家族の参加依頼は、管理者が個別に声をかけてお願いしている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>定期的に連絡会、勉強会の案内を頂き、参加することで市町村と連携を取りながら質の向上を目指す。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>市の協力を得て市内グループホームの連絡会を行っており、運営推進会議にも相互に参加するような仕組みがある。会議参加をきっかけに、行事に参加し合う等してネットワークが広がっている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員の理解は徹底しているが、今後も定着させていく。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>玄関の出入りがあれば、1階ユニットの居間でチャイムが鳴るようになっていく。現在は、身体拘束について研修する機会を持ってはいないが、管理者や計画作成担当者は、日々のケアを捉えて、「～は身体拘束になるよ」と職員に話している。身体拘束や虐待については、職員が正しく理解できるように、定期的に勉強する機会を作ってほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  ミーティングや勉強会で防止に努める。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  日常生活自立支援事業利用者が1名いらっしゃるため、職員に制度の説明をし、個々に学ぶ機会を持つ。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時は十分時間を取り、説明、質疑応答に誠意を持って対応している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  家族会や日々の面会時に相談等を行うが、足遠い家族には電話を利用している。なお、玄関に匿名の目安箱を設置している。  (外部評価)  家族への情報提供は、電話や来訪時に写真等を見せる等して行っている。4月の花見、9月の敬老会時に家族会を行っている。又、日々の利用者の様子を「包み隠さず」、個別に細やかに、電話等で連絡する取り組みを行っており、家族との信頼関係につながっている。廊下には、職員の顔写真に特技を添えて掲示していた。	6月の運営推進会議時に、参加者から「機関誌の発行について」提案があったことを機に、今後は、2ヶ月ごとの発行を検討している。運営推進会議に参加しない家族へも会議内容を知らせたり、知りたい情報を得ることができるような報告に工夫してほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティングや勉強会、また個別に機会を設ける。	
			(外部評価)	
			職員の人手不足のある現状のようだが、管理者はこの一年間は「職員同士協力し合い、楽しみながら取り組めた」と感じている。職員は、困ったことがあればその都度、管理者や計画作成担当者に話しており、ストレス軽減になっている。ミーティングの後は、管理者が決めたテーマで勉強会を行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			今以上に取り組んで行く。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			今以上に取り組んで行く。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			今以上に取り組んで行く。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			事前にアセスメントをご本人や家族と十分行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>事前にアセスメントをご本人や家族と十分行っている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>丁寧な観察と声掛け、会話にてその時必要なケアの見極めを行っている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家庭的な雰囲気の中でその方らしい生活が出来るよう支援している。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>電話や面会時を利用し近況を伝え常にコミュニケーションを取っていくようにしている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>親族や友人の面会あり、また希望があれば外出支援を行う。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>隣接する系列デイサービスを利用する兄弟に会えるよう、支援するケースがある。親戚等の来訪時には、ゆっくり過ごせるように居室に案内し、お茶等を出している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 自力で施設内の人間関係が構築出来る方は暖かく見守り、そうでない方にはスタッフが間に入り、コミュニティ作りを支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了後2～3カ月までは、本人や家族の様子に気をつけ、必要時は相談に乗っている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意思表示の出来る方とは相談の上可能なことは実施し、出来ない方には家族からの情報や、仕草等の観察で、なるべく意思に沿うよう心掛けている。	
			(外部評価) 入居時に、家族等に聞き取り、フェースシートに生活歴や入居の経緯等を記入している。	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境について情報を集め整理したり、意思表示が難しい利用者についても、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討できるような仕組み作りが期待される。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前にアセスメントをご本人や家族、居宅等のケアマネと十分行っている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録を付け、見直したり、本人を含めたチームでケアカンファレンスを行うことで把握に努める。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスはなるべく本人参加型とし、また家族にも必要時は電話で相談し意見を聞いている。 (外部評価) 介護計画のサービス内容については、日々の介護記録に転記しており、実施したかどうか毎日チェックしているが、その後のモニタリングや評価にはつながっていない。介護計画は、計画作成担当者等が家族に「希望することがありますか」等と聞き取り、担当職員と話し合い作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 実施できている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族の経済状況や、本人の心身状態の大きな変化等、その現状に即した施設を探す支援も行っている。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 併設のデイサービスにおいて慰問等があれば参加させて頂いたり、小学校行事や地区の行事への希望者参加などで支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>実施できている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時には、協力医療機関からの参加もある。事故・ヒヤリハット報告で誤薬について報告したことで、協力医療機関で薬の袋に色を付けて分かりやすくしてくれるようになった。その後は誤薬が減っている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>准看護師の資格を持つ職員に相談しながら、かかりつけ医に報告している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院時は可能な限り付き添い、情報提供を行い、退院時には入院中の様子を良く聞き、こちらでの生活がスムーズに送れるよう連携を取っている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>急変時には家族、主治医と相談し、今後の方針を決定する。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市からは「看取り支援するためには、正看護師が24時間対応できることが必要」と言われており、事業所では体制整備が難しい現状のようだ。入居時にはその旨を家族に説明して了解を得ている。家族は、他介護施設等に申込みをしており、この一年では順番が来たため、退居するケースがあった。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  一昨年、消防署より救急救命法の講義を受けたが、定期的に行っていないのが現状。AEDは設置済み。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  避難訓練を定期的実施。なお、施設前の集会所を緊急避難場所として借りることのできる体制を取っている。  (外部評価)  3月には自主避難訓練を行っており、11月には消防署の協力を得て訓練を行っている。備蓄はカレーや水、カンパン等、約3日分を用意している。伊方原発事故発生時の受け入れ事業所の確保については、今後の取り組みになっているが、運営推進会議等で相談しながら取り組みをすすめてほしい。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  実施できている。  (外部評価)  職員トイレには、職員の言葉遣い等気を付けることについて掲示物が貼ってあった。利用者の生活リズムに応じて食事の時間をずらして支援している。職員は、やさしい口調でゆっくりと利用者に話しかけていた。昼食時には、「後ろから失礼しますね」等と声をかけながら配膳をしていた。利用者に希望を聞いているが、「何でもいいよ」と言われることが多いようだ。	利用者主体の暮らしを支援できるように、利用者が決めたり選んだりできるような場面作りに取り組んでほしい。そのような取り組みを利用者個々の自信や意欲につなげてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  介護者の押し付けにならないケアを心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)  表情を観察し、無理強いすることのないケアを心掛けてい る。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価)  髪のカットや季節に合った衣服の声掛け。手持ちの化粧品 のある方には声掛けし、使用して頂いている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)  下ごしらえや台拭き、お膳拭きの手伝いを依頼している。調 理中の副菜が出来上がる過程での匂い等も話題にするなど 工夫している。  (外部評価)  利用者に「何が食べたいですか」等と聞くと「何でもいいよ。 おいしいから」と言われるようで、献立は、職員が順番で1週 間ずつ作成している。各ユニットで職員が調理を行って おり、利用者はお盆拭き等を行っている。利用者にとって、す くしやすいようなお皿を選んだり、肉を一口大に切って口に入 れやすいようにしていた。職員も利用者と同じテーブルに座 り、介助やおしゃべりをしながら同じものを食べていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)  その方に合わせた摂取量になるよう気をつけている。また水 分量は状況に合わせて記録を取り、不足しないよう留意して いる。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)  夕食後は一部介助にて全員実施。その他はセルフケアが現 状である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。入所前は紙パンツだった方が布パンツになった例もある。	
			(外部評価)	
			日中は、職員がトイレに誘導する等してトイレで排泄できるように支援している。トイレ内には、職員の手が借りたい時に利用者が呼べるようにベルを置いている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			食事メニューやおやつにヨーグルトを頻回に使用。また、散歩や体操等で予防している。	
			(外部評価)	
			入浴剤やたっぷりのお湯など「気持ちいい」と感じて頂けるよう努めている。時間帯は午前か午後、日によって変更することで工夫している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			入浴剤やたっぷりのお湯など「気持ちいい」と感じて頂けるよう努めている。時間帯は午前か午後、日によって変更することで工夫している。	
			(外部評価)	
			利用者個々に、週に2～3日に1回入浴できるよう支援している。午前、午後と分けて支援しており、入浴を拒む方には次の日に替えて支援している。入居案内時には、「浴槽をまたげない方は浴槽に入ることは支援できない」ことを説明しており、足浴しながらシャワーを浴びられるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			自分のペースでベッドタイムが取れる方にはお任せし、そうでない方には声掛けにてベッドタイムが取れるよう支援している。夜間の不眠対策には日勤帯の見直しを図る。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)  処方箋がすぐ確認できるようにし、変化があれば申し送りで何度も確認し合う。誤薬のないよう二人体制でチェックする。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)  その方に合わせた暮らしになるよう気をつけるとともに、暮らしの中で「その方ができる事」に着目して手伝いや趣味等を楽しんで頂いている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)  日光浴や散歩が出来るだけ楽しめるように努めているが、日常的に個別に外出支援を行うことは人材不足あり、対応が困難。外出行事を利用したり家族と外出されることはある。  (外部評価)  職員は、2ヶ月ごとに交代して行事の企画運営を担当しており、利用者に「何か食べたいものはありますか」等と聞きながら計画を立て支援している。事業所では、職員の手不足や外出するメンバーが決まってきている等の課題点を挙げていた。廊下での歩行練習等を行う利用者もあるが、日中の活動量はやや少なめに感じる。体重が増加傾向にある利用者もあるようだ。	散歩等、利用者の日常的な活動を戸外にも拡げてはどうだろうか。地域や家族等に協力者となってくれるよう、呼びかけてみてはどうだろうか。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)  小遣いを事務所で預かり、希望時に使用することもあるが、あまり家族や本人の希望が無い。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)  暑中見舞いや年賀状の季節には、希望を聞き対応している。家族からの電話を取り次ぎ会話することもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)  実施できている。	
			(外部評価)  七夕の笹飾りや塗り絵が得意な方の作品、ひまわりの色紙細工等を飾っていた。午前中にテレビ体操を行ったり、系列デイサービスから異動してきた職員が中心となって、レクリエーションをすることもある。職員が明るく対応してくれることが、家族の訪問のしやすさにもつながっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)  食卓用のテーブルと椅子の他にソファコーナーを設け、工夫している。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)  自宅で使い慣れた食器や衣類、寝具等を施設内に持ち込んで頂いて使用している。居室内のレイアウトも本人や家族と相談している。	
			(外部評価)  自室で転倒した利用者について話し合い、自宅からじゅうたんを持って来てもらい、敷いているところがあった。利用者は「自宅にいたい」と言われるようだ。本人は、自宅にいるから朝食後に新聞を読む習慣があり、入居後も自室でベッドに座って新聞を読めるよう支援している。自宅から椅子を持ち込み、ベッドサイドに置いて手すりにしている方がいた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)  日中の過ごし方は自由に、マイペースに。どうしてよいかわかりにくい方には声掛けにて提案しながら過ごして頂いている	
			(外部評価)	